

研究者：鈴木志帆美 齋藤 孝平 塩津 朋子 渡邊 純

(所属：神奈川歯科大学 国際医療ボランティア研究会)

平田 幸夫

(所属：神奈川歯科大学，大学院 社会歯科学講座教授)

研究題目：タイ王国ナーン県における歯学部生の国際保健活動

目的：

現在，世界各地には貧困・医療不足といった理由で基本的な医療供給が困難な国が存在しているのが現状である。我々は，途上国における実際の歯科医療の現状および現地のニーズを把握する必要があると考え，国際保健医療における歯科保健のあり方を模索することを目的とした。

加えて，学生自身が企画することにより自分自身で物事を考える自己解決能力と，世界的な視野で物事を見る力を養うことを目的とした。

対象および方法：

【日程】

・平成 25 年 2 月 17 日（日）～2 月 22 日（金）

【場所】

・タイ王国（バンコク，ナーン県）

【活動】

- ・歯科保健活動
 1. ノンムアン保育園
 2. リンパカ・パシャヌコ小学校
 3. 山岳民族の村にある小学校
- ・日タイ歯科学学生交流会

【参加者】

- ・神奈川歯科大学 国際医療ボランティア研究会部員 4 名（内 2 名は国内からの後方支援）
- ・マヒドン大学 歯学部 6 年生 4 名

結果および考察：

活動は，2 月 17 日から 2 月 22 日の 6 日間で行われた。本活動は，国内からの後方支援を含め，鈴木志帆美，齋藤孝平，塩津朋子，渡邊純の計 4 名が参加した。2 月 17 日から 20 日をタイ北部にあるナーン県での保健活動，21 日をマヒドン大学での保健活動の発表と学生交流にあてた。

ナーン県での保健活動は，マヒドン大学歯学部 6 年生とともにナーン県ターワンパー郡にあるノンムアン保育園での歯科検診，同地区にあるリンパカ・パシャヌコ小学校での保健活動，ナーン県とパヤオ県の県境にある山岳民族の村にある小学校での保健活動を行った。

ノンムアン保育園では、マヒドンの学生とともに現地歯科医師をサポートしながら、治療が必要な子を検査した。7割近くの幼児は口腔内に異常はなくとてもキレイであったが、残り3割近くの幼児は齲蝕が見つかった。齲蝕が存在した子は多数歯に齲蝕がある傾向がみられた。ここで齲蝕などの疾患が見つかり治療の必要ありになると保護者に連絡がいくようになっているようである。



検診するナーンのドクター



多数の齲蝕があった



子供たちと一緒に

リンパカ・パシャヌコ小学校ではマヒドン大学の学生が主体となり、齲蝕になりやすい食べ物に関しての食育指導をした。この小学校にはお菓子やアイスクリームが売っている場所があり、昼休みになるとお菓子を求めて行列ができる。そのため、『齲蝕になりにくい物を食べましょう』、『食べても歯を磨きましょう』という二つをポイントにして○×クイズ形式で教育した。クイズ終了後、お菓子パーティーという名目でお菓子を並べ自由に食べてもらい理解度確認を行った。

結果的には、「齲蝕になりやすい物」「齲蝕になりにくい物」の両方が無くなった。個人で見ると、「齲蝕になりにくい物」だけを食べていた子供も見られた。また、「齲蝕になりにくい物」が最初に無くなり、続いて「齲蝕になりやすい物」が無くなった。これらより、食育指導の趣旨は子供たちに伝わっていたが、1人が「齲蝕になりやすい物」を食べてしまうと集団的心理で他の子供も食べてしまったのではないかと考えられる。



アイスブレイキング



問題を出題



小学生の答え



一緒に歯磨き

山岳民族の小学校では私たちが主体となり活動をした。私たちが英語で喋り、マヒドン学生がタイ語の訳しながらブラッシング指導を紙芝居形式にして行った。こちらの一方的な発信では困るので、マヒドンの学生が復習クイズを出題し、一方的にならないように行った。最初は民族の言語しか理解できないかもしれないという話であったが、タイ語は喋れ、英語も少し学んでいるようであった。リンパカ・パシャヌコ小学校ときのように、みんなで歯磨きをすることは出来な

かったが、復習クイズのおかげで磨きにくい部分などは理解してもらえた。保健指導が終わったあとに、折り紙を配りみんなで紙飛行機を折った。



トウクトウク・ゲーム



紙芝居



みんなと紙飛行機

マヒドン大学での学生交流は、マヒドン大学歯学部4年生10名と2年生10名が参加した。我々はナン県での保健活動についてと日本の学生生活を発表した。保健活動については、一つの写真に良い反応を示してくれた。特にノンムアン保育園で撮影した口腔写真はどのようになったのか、などディスカッションができた。学生生活の発表では、部活とCBTがどのようなものかという質問を受けた。マヒドン大学歯学部4年生はタイの学生生活についての発表してくれた。タイの歯科医師国家試験が東南アジアで共通の免許になり、試験が英語で行われていることを知った。マヒドン大学の先生の希望で、日本の文化発表として茶道と書道を行った。ほとんどの学生が抹茶は初めての経験だったようで、苦そうに飲んでいたが、茶を点てる流れや雰囲気素晴らしく美味しかったと言ってもらえた。また書道も、学生の名前を日本語で書いてあげたり、反対にタイ語で私たちの名前を書いてもらったりした。好評でたくさん書いたため100枚あった半紙が無くなった。最後に来年の活動についてディスカッションして終えた。



日本学生の発表



書道に熱中するドクター



日泰友好

今回の活動で、良かった点と反省点が生まれた。3つの保健活動は、自己紹介、アイスブレイキング、メインとなる活動という流れで行い、今回はアイスブレイキングの必要性を実感した。導入部で行うことにより子供たちとの一体感が生まれ、その次に行く保健活動がスムーズにできた。それには、マヒドン大学の学生と一緒に活動できたところが大きかったと感じる。国際医療ボランティア研究会の海外保健活動として、タイの学生と一緒に保健活動をしたのは初めてで

あった。これまでの日本人目線だけの活動とは違い、日本人学生とタイ人学生がディスカッションすることにより現地のニーズに合わせた活動ができた。

反省点としては、3か所で歯科保健活動を行ったが、タイの児童が持つ歯ブラシは日本のサイズよりヘッドが大きいように感じた。私たちが配るために持ってきた小児用歯ブラシを見た現地歯科医師から「乳児用歯ブラシ？」という質問をされた。今後、タイの歯科学学生や歯科医師と歯ブラシのヘッドが大きい方が良いのか悪いのかなどをディスカッションし、現地の人たちにメリットがあるものを選ぶようにしたい。

今回の活動は、今まで7回に及ぶ神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会の保健活動内容が凝縮されたものであり、1年ごとに保健活動が成長していると気付かされるものになった。また、今回の良かった点、反省点などを生かせれば、来年度の保健活動がさらに現地の方々に有意義なものになると思う。

成果発表：

- ・ 神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会事業報告書掲載・発行
- ・ 神奈川歯科大学広報 原稿投稿
- ・ 歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）総会 発表
- ・ 神奈川歯科大学学会 発表
- ・ 神奈川歯科大学学園祭 発表